

原田ゼミナール

庭窪ワンド

庭窪ワンドは、淀川の中流域にあり淀川本流とつながっている池のような地形の場所です。本流とつながってはいるものの本流の流れの影響がないので、多くの生物にとって暮らしやすい環境です。

イタセンパラは、かつて庭窪ワンドにも生息していましたが、ブラックバスなどの外来魚に捕食されたり、外来植物が繁殖し、ヘドロになるのでイタセンパラの産卵場となる二枚貝が生息しにくい環境になってしまっていて庭窪ワンドでは絶滅してしまいました。現在庭窪ワンドの少し上流にある城北ワンドには生息しています。

私たちは、淀川河川レンジャーの皆さんや地元漁師の方と庭窪ワンドで外来生物の駆除やワンド内の清掃活動をしています。活動の成果として、近いうちにイタセンパラを庭窪ワンドに試験的に放流できる段階までできています。

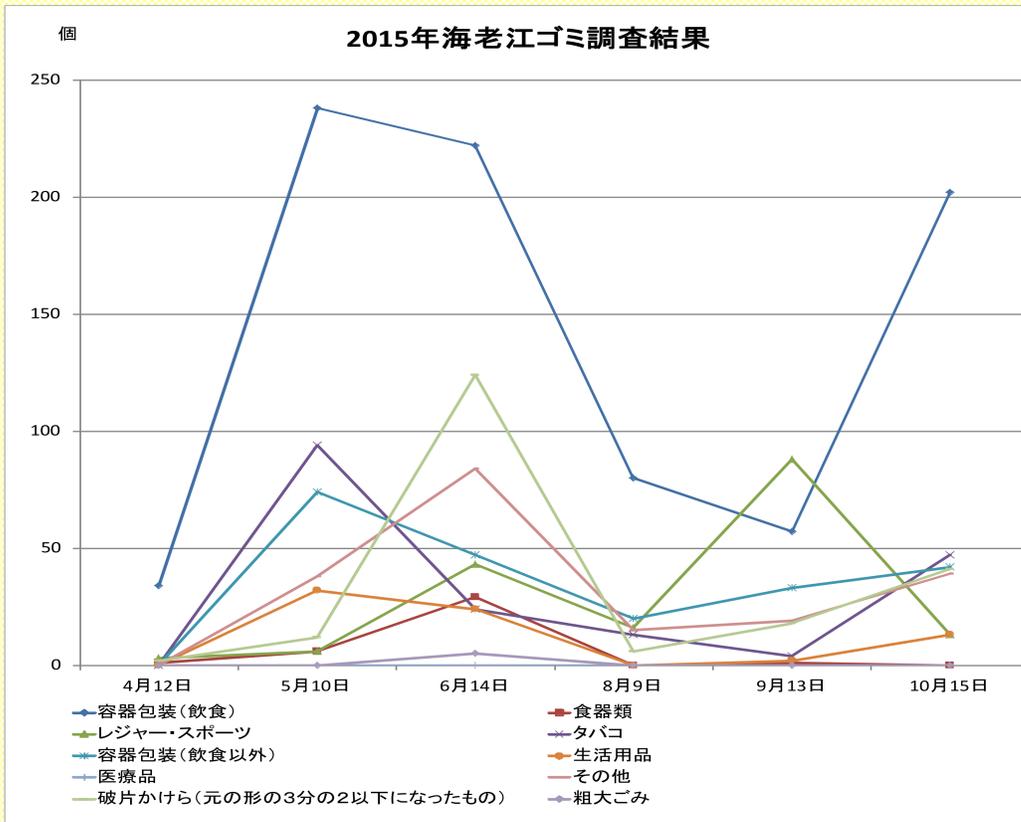


海老江での活動

毎月第2日曜に、淀川の海老江干潟でNPO法人ゴミングのみなさんと一緒に清掃活動を行いそのゴミの種類と数の調査をしています。

海老江は、淀川の下流部にあり上流から流れて来るゴミもあり、なかには京都から流れついたものや机、原付などの大きなものまで漂着しており、左のグラフは半年で拾ったゴミの種類とその数で、飲食物の容器包装が多くみられます。夏には花火やバーベキューのゴミが多くなっています。

毎月、清掃活動をしているもののゴミの数はなかなか減らず、むしろ増えている月などもあり現状としては困っています。ここで回収できなかったゴミなどは最終的には海にまで漂着し、**海ゴミ**としていろいろなところに浮かんでいるでしょう。



原田ゼミでは、毎年2回生が夏休みに合宿を行っています。今年は岡山県倉敷市にある水島コンビナートに行ってきました。水島は日本でも有数の工業地帯で、周りが山に囲まれた地形になっています。今年の合宿は水島財団をはじめ、現地の人たちのヒアリングやコンビナート全体の半分ほどの敷地を持つ、製鉄工場JFEスチールの工場見学をしました。

工場内には、水島エコワークスというゴミ処理施設があり、倉敷市内から出る一般廃棄物やコンビナート企業内から出る産業廃棄物を、ガス化溶融炉で再資源化を行い、有機物は天然ガスとしてコンビナートの発電燃料に使用され、無機物はスラグやメタルとして再利用するなど資源循環型の社会の実現に貢献しています。



保津川の献上鮎を復活させよう！

今年から保津川漁協の方々と連携し、鮎に関する調査を開始しました。このゼミでは今年から始めた活動のため手探り状態です。

保津川にも昔は立派な鮎がおり「献上鮎」と呼ばれていましたが、ダムや堰が多数建設された結果、遡上することが出来なくなり堰などに滞留し、カワウなどの鳥やマスなどの肉食魚に捕食され数が減少しました。

この献上鮎を復活させる活動も始まっており、このゼミでは遡上できず、滞留している鮎を投網をしてすくい上げ、さらに上流へ移送する活動に参加しています。

その他にも一般の方々を対象としたイベントにもボランティアスタッフとして参加しており、これからは活動の幅を広げていきます。

毎年、嵐山で観光客の方々を対象にアンケート調査を行っていますが、今年からはこの活動に合わせて鮎に関するものになっています。

